

10月2日（日）受付分のご質問への回答（回答：二村先生、【】内：展示担当者補足）

1. 俳句はいつからできたか。

— 「俳句」と呼ばれる文芸になったのは明治時代からです。

2. 季重なり【1つの句の中に季語が2つ以上入っていること】が禁止になったのはいつ頃のことか。

— 明治時代以降です。江戸時代は季重なりの句が意外とありました。連句が衰退してからそうなったと思います。

3. 日本には、主な俳句の流派がどのくらいあるのか

— 江戸時代の例では、雪中庵系（関東）、採茶庵系（関東）、葛飾系（関東）、四時観系（関東）、江戸座系（関東）、柳居・白雄系（関東）、涼袋系（関東）、美濃派系（関西）、白尼・暁台系（関西）、希因・蘭更系（関東・関西）、蕪村系（関西）、二柳系（関西）、樗良系（関西）、蝶夢系（関西）、乙二系（東北）などがありました。

明治以降では新興したり衰退したりしており、その数は私【二村先生】には、正確にはわかりません。

4. 俳句番組等では、情景描写のない句（絵画の世界でいえば写実派に対する印象派・抽象画のような）が評価されているが、そうした俳句が流行しだしたのはいつ頃からか。またどのような点が評価されているのか。

— 俳句を「写生」としたのは子規で、写生句は俳句の特質だと思います。加藤楸邨らの人間探究派など、句の中に思想をこめたりする傾向もありました。夏井いつき先生【俳人・エッセイスト（公式サイト「いつき組日誌」<http://natsui-and-co.jugem.jp/>）】は俳句に詠んではいけない題材はないと言っていますが、世界一短い文芸なので、様々な試みがなされ、評価も多様になってきていると思います。

ご質問ありがとうございました。近代俳句については研究をあまりしていないので、正確なお答えはできませんでしたがご容赦ください。

二村

【近年の俳句について、二村先生より「近代以降の俳句については、俳句同人誌の主宰などに尋ねた方が正確なことがわかるかと思います。」

との補足をいただきました。この度はご質問ありがとうございました。

展示担当 森戸】